

## 建築理論におけるシエマ概念と設計教育への応用 その2 —ブロック玩具を用いた「アブストラクト・アーキテクチャー」の実践としての“組積研”の活動 / “組積展”報告—

建築理論 シエマ 組積展  
ブロック玩具 アブストラクト・アーキテクチャー

正会員 ○片桐悠自\*

### 1. 自主ゼミナール“組積研(そせきけん)”

2021年度に立ち上がった自主ゼミナール「組積研(そせきけん)」では、建築の外形における「記憶」を探求するにあたり、ブロック玩具(レゴ®ブロック)を用いた、建築設計教育におけるイメージの認知の枠組みを検証するワークショップ(WS)を行ってきた。具体的には、「アブストラクト・アーキテクチャー-Abstract Architecture(抽象建築: AA)」という仮説の具体的な相貌を明らかにするため、ブロック玩具を用いて、建築設計におけるエスキースの過程を、簡易な3次元モデルとして提示するものである(Fig.1)。そして、本研究会の活動の仮説「AA」を通じた研究活動の報告会として、展覧会“組積展(そせきてん)”を2023年2月に開催した。

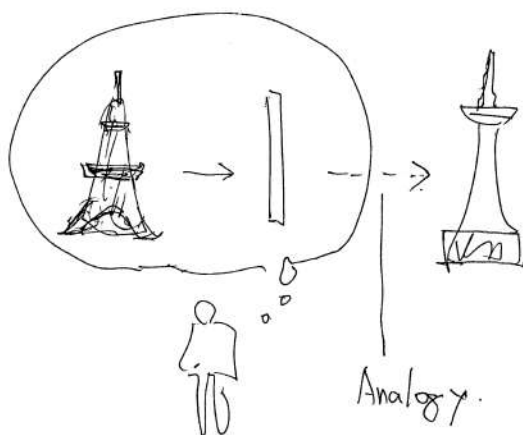


Fig.1 Diagram of the Concept of “Abstract Architecture”

### 2. ブロック玩具を用いたワークショップ(WS)

#### 2-1 ワークショップの準備: 第1回WS(組積研内)

仮説「AA」を学術発表とするため、筆者、谷田部僚太、高橋尚弥、柏崎健汰による2022年4月の会合では、谷田部より、メンバー全員で共有可能な有名建築を対象として、分析結果を導き出すという提案がされた。会合のなかで、「東京タワー」「平等院鳳凰堂」「サヴォア邸」が選定され、参加者を組積研内のブロック玩具模型製作経験者3名とした第1回WSを6月に行った。WSの結果から、「東京タワー」「平等院鳳凰堂」「サヴォア邸」が選定さ

れ、分析用のWSの実行方針として「短時間で」、「色数を可能な限り少なく」、「基本パーツであるブロックならびにプレートを用いて」、「8×8プレートの上に作成する」という基本方針が定められた。

#### 2-2. 学内・学外ワークショップ: 第2回~第5回

組積研メンバーの谷田部が中心となって、組積研メンバー内で2022年6月に行った第1回分析用WSの結果を、「アジアの建築交流国際シンポジウム(ISAIA)2022」で発表した<sup>注1)</sup>。なお、2022年9月22日には、建築学科1年生を対象とした第2回分析用WSを行い、6月のWSと比較した内容を、日本図学会で発表した<sup>注2)</sup>。



Fig.2 WS on 12 November 2022 in 16th Annual Meeting of the Association for Studies of Culture and Representation

第3回WSは、表象文化論学会第16回研究発表集会のワークショップ企画(査読あり)「組積研WS—ブロック玩具で探究する「都市の建築」の表象」(2022年11月12日・関西大学梅田キャンパス)では、第1回・第2回と異なり、大卒程度の参加者を想定し、「家」と「街」のふたつのイメージをブロック玩具でヴィジュアル化するWSを行った(Fig.2)。ゲストコメンテーターに、小見山陽介氏(京都大学建築学科講師)、ゲスト参加者に小林卓哉氏(ゲームプログラマー、元東大LEGO部制作担当者)を迎えた第3回WSでは、表象文化論・美学研究者、建築系留学生らと交え、「抽象建築」に関する議論を行った<sup>注3)</sup>。

第4回分析用WSは、同月11月19日の日本図学会大会で、第3回と同内容で5分-10分程度の短い時間で会場聴講者である建築系の大学教員を対象として行った。

さらに、第5回目分析用WSとして、第3回と第4回と同内容で、12月26日に東京都市大学大学院福島研究室の建築意匠系院生向けWSを行った。この結果と分析は、谷田部の修士論文の内容の一部をなしている<sup>注4)</sup>。

### 3. 組積展

模型ワークショップの活動の集成として、2023年2月13日-18日に、シンポジウムを兼ねた展覧会「組積展」(東京都市大学世田谷キャンパス建築学科棟2階ゼミ室A+片桐研究室)を行った。第2回から第5回までのWSで制作された模型が一同に会しAAを三次元にヴィジュアルライズした(Fig.3, 4)。またメンバーの高橋の卒業設計「シン・カプセルタワー」があわせて展示された。この内容は、頒布したパンフレット『組積展/組積研』においてアーカイブ化されている<sup>注5)</sup>。



Fig.3 Soseki-ken Exhibition in Tokyo City University

また、初日の2月13日には、三井淳平氏(レゴ®認定プロビルダー、三井ブリックスタジオ社長)、井上岳氏(GROUP 共同代表)を招聘し、ギャラリートークを行った。二日目の14日は、岸田省吾氏(東京大学名誉教授)、加藤道夫氏(東京理科大学客員教授・東京大学名誉教授)、岩岡竜夫氏(東京理科大学理工学部教授)の鼎談として、ギャラリートークを行った(Fig.5)。

### 4. 結びにかえて

AAは三次元のヴォリュームメトリックなシエマのカタログとして表現されることで、建築設計における参照のメカニズムを一覧化する。ここで、様々な形態イメージを観測する「類推」の作用が期待される。ここから、アルド・ロッシによって提示された「類推的都市」やO.M.

ウンガースの設計手法と関連付けることもできるだろう。



Fig.4 Soseki-ken Exhibition in Tokyo City University



Fig.5 Symposium in Soseki-ken Exhibition on 14 February 2023, with Prof. S. KISHIDA, Prof. M. KATO and Prof. T. IWAOKA.

付記：本研究は2021年度東京都市大学若手奨励支援予算(「記憶の家：プロジェクト：ブロック玩具で建築をアーカイブする」代表者：片桐悠自)の成果報告の一部をなす。東京都市大学建築学科のほか、建築都市デザイン学部学部長・末政直見教授らにご支援とご協力をいただいた。表象文化論学会と日本図学会においては、ワークショップの機会を提供いただいた。その他関係された多くの皆様に、深く謝意を表したい。

図版 組積研提供 (Fig. 1-2: 筆者, Fig. 3-5: 上野辰太郎) 注

注1) YATABE, Ryouta, KATAGIRI, Yuji, and FUKUSHIMA, Katsuya, "Abstract Architecture: Building Recognition Method with Toy Brick Models, Proceedings of the 13th ISAIA (13th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia), 2022年12月2日発表。

注2) 谷田部僚太, 片桐悠自, 高橋尚弥, 柏崎健汰, 福島加津也「抽象建築—建築要素の分析—」, 日本図学会2022年度大会, 2022年11月19日発表。

注3) 片桐悠自「第16回研究発表集会報告 ワークショップ2 組積研 WS ブロック玩具で探究する「都市の建築」の表象」, <https://www.repre.org/repre/vol47/meeting16/ws2/>, 2023年4月3日閲覧。

注4) 谷田部僚太『Abstract Architecture: Representation of Architecture through Brick Toy Workshop (抽象建築—ブロック玩具ワークショップによる建築イメージの研究—)』(修士論文), 東京都市大学大学院, 2023。

注5) 組積研『組積展/組積研』, <https://researchmap.jp/yujikatagiri/misc/41450207> (PDF本文あり), 2023年4月3日閲覧。